みどり市立笠懸南中学校のホームページをご覧いただきありがとうございます

１　笠懸南中学校の紹介

笠懸南中学校は、みどり市の南部に位置し、本校周辺には岩宿遺跡やグンエイホール PAL（笠懸野文化ホール）、笠懸公民館、桐生大学グリーンアリーナ（みどり市民体育館）などの文化・体育施設があります。落ち着きと活気のある地域にあります。

本校は昭和 57 年に創立され、令和３年には創立 40 年を迎えた比較的新しい学校です。この間、教育に熱心な気風をもつ笠懸地区の人々の、たゆまぬ努力と協力により、着実な成長と発展を遂げ、輝かしい歴史と伝統を築いてきております。

生徒は明るく気持ちが穏やかで、学習はもちろん生徒会行事などに意欲的に取り組み、部活動では中体連各種大会やコンクール等でも素晴らしい力を発揮しております。「歌声のあふれる学校に」という思いから平成１９年度に発足した有志生徒による「笠南合唱団」は本校のよき伝統となっています。

今年度も学校教育目標である「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」を身に付けた、主体性のある生徒の育成を目指し、本校学校教育の充実に邁進していきたいと思いますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

２　子どもの自立に向けてできる５つのこと

教育の最終目標は子どもの自立であると考えます。

子どもの自立を促すためには子どもの自己肯定感をはぐくむことが大切です。

子どもの自己肯定感をはぐくむために、家庭、地域、学校で、毎日できることが５つあります。

それは、1. 見つめる 2. ほほえむ 3. 話しかける 4. ふれる 5. ほめる です。

子どもをやさしく見つめると、子どもは安心感をもちます。

子どもにほほえむことで、子どもはさらに安心感を持ちます。

子どもに話しかけるときには「そうだね」「なるほど」などと共感的に話すと子どもは受け止められていると感じます。

コロナ禍ではグータッチ、アフターコロナではハイタッチや握手をしてあげると、子どもはさらに受け止められていると感じます。

ほめるときには、その子の頑張りや良い行いなど事実をほめてあげると、子どもは次第に自分に自信を持てるようになります。

このような５つの行為によって子どもは、自分は認められている、自分にもできるという感覚「自己肯定感」を持てるようになります。

そして、この「自己肯定感」が自分の力で人生を歩む原動力になり、子どもの自立を促すことになります。

見つめる、ほほえむ、話しかける、ふれる、ほめるを、家庭、地域、学校みんなで心がけ、子どもの自己肯定感をよりよくはぐくみ、子どもの自立を促していきましょう。

みどり市立笠懸南中学校　校長　大　澤　　智